

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第12号(2023年3月号 [2023/3/14 発行])

日中は暖かくなって参りましたが、まだまだ朝晩は冷えて寒暖の差が大きい日が続いております。いかがお過ごしでしょうか。体調を崩しやすい時期ですのでお体にお気を付けお過ごし下さい。今回はワクチンのお話し、特にインフルエンザ、肺炎球菌ワクチンについてのお話ししたいと思います。

インフルエンザ予防接種のお勧め

インフルエンザワクチンについては、一般に重症化の予防効果が認められています。RA やその他の膠原病で治療中の方々は、インフルエンザにかかると重症化しやすいため、特に接種による便益が大きいと考えられるため、予防接種をお勧めします。インフルエンザを予防するには、(1) 流行前のワクチン接種 (2) 飛沫感染対策としての咳エチケット (3) 外出後の手洗い (4) 適度な湿度の保持 (5) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取 (6) 人混みや繁華街への外出を控えるなどがあります。この予防策はコロナウイルス感染に対しても有効ですので継続してください。なお、コロナ禍においてはインフルエンザの流行が少なくなりましたが、また増えてきていますので注意が必要です。今季は、そろそろ少なくなってくる時期ですが、季節に関係なく発症例もありますので、引き続き注意が必要です。来年も時期がきたら、是非インフルエンザワクチン予防接種を推奨します。

肺炎球菌ワクチンの接種について

平成26年10月1日より、23価肺炎球菌莢

膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23:ニューモバックス®NP)の65歳以上の成人を対象とした予防接種法に基づく定期接種が開始されました。一方、平成26年6月に13価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV13:プレベナー13®)が、65歳以上の成人に適応拡大されたことから、PCV13を同対象年齢に対して任意接種ワクチンとして接種することが可能となっています。海外および国内のデータから、65歳以上の成人に対するPCV13の安全性はPPSV23とほぼ同等、またPCV13の効果は同等あるいはPPSV23より優れていることが分かっています(免疫を記憶する細胞に働きかけるので効果が持続します)。PCV13は65歳以上の成人における軽症から最重症の肺炎球菌性肺炎を減少させたと報告されています。紙面の関係上、詳細は省きますが、現在推奨されている肺炎球菌ワクチンの接種の具体的な流れは図1の通りです。PCV13は一生に1回の投与となりますが、PPSV23については、5年以上の期間をおいて繰り返して投与します。65歳以上のRA やその他の膠原病で治療中の方々は、特に生物学的製剤のような強い治療を受けている、あるいは受ける予定の方は、肺炎球菌にかかると重症化しやすく命に関わることもあり、接種による便益が大きいと考えられるため、予防接種をお勧めしています。当院でも、いずれのワクチン接種も行っておりますので、ご質問のある方は、いつでも医療スタッフにお声をおかけ下さい。

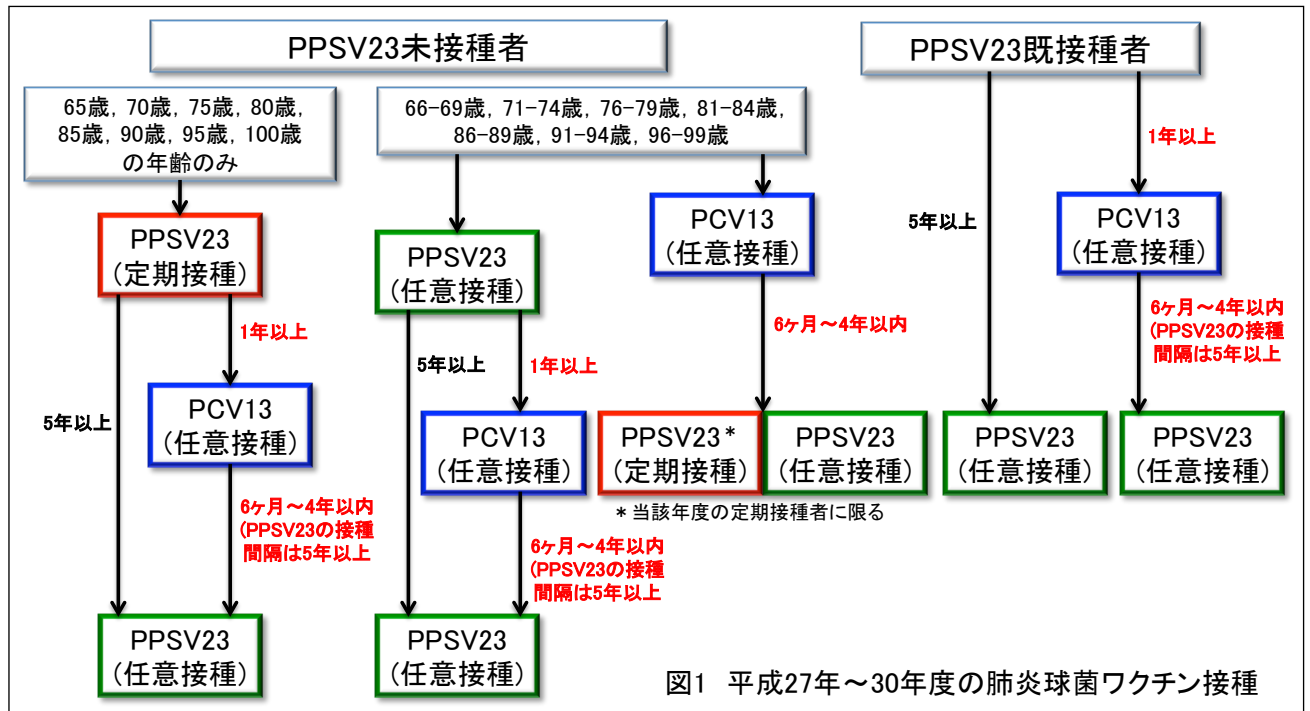


図1 平成27年～30年度の肺炎球菌ワクチン接種

第 65 回九州リウマチ学会が開催されました

2023年3月11日（土）～12日（日）にアクロス福岡（福岡県博多市）にて、九州大学大学院医学研究院 医学教育学講座 教授 新納宏昭先生会長の下、第65回九州リウマチが開催され参加させて頂きました。筆頭演者で橋場医師1題、日高医師1題を発

表させて頂きました。多くのご質問もあり大きな反響がありました。ご時世柄情報交換会は開催されませんでした。多くのリウマチ医と情報交換を行い、今後のRA診療に生かせる有意義な時間を持つことができました。

（日高利彦）



リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)